Q　給食センターの経年劣化等による修繕費について、点検時発見された不具合は翌年度予算で計上していくのが一つのルールである。補正で計上される理由は。

A　保守点検で発見できなかった不具合の緊急対応用の修繕費を当初予算に計上している。しかし、給食センターの調理機器等は設置後18年以上経過しており、経年劣化による不具合が各所で発見、確認されている。安心で安全な学校給食を継続的に提供するために、冷凍庫内の冷媒排水受皿の凍結を防ぐヒーター部の修繕や、エアーシャワー室の自動ドアの修繕、地下ピット内に配管された蒸気管の蒸気漏れの修繕を長期休業時に施工するために、不足額を補正予算で計上した。

議案（第96号）審査中の議員間自由討議から

●今回の補正予算で特に本庁舎と東館の管理委託費について大きな差があると感じた。管理委託については一本化すれば経費削減が図られるのではないか。また、消防署の施設修繕も施設管理を計画的に行うべきではないか。

●会計年度の中での補正の在り方というのは非常に重要である。当初予算に想定されるものはできるだけ取り入れ、精度の高い当初予算とするべきであり、議会としてもしっかりと審査していくことが必要である。年度途中での想定できなかった補正の発生については、財源の確保について国や県にも要望していくことが重要である。

「菊川市議会業務継続計画」を策定

BCP検討グループ

菊川市議会では非常時における議員の役割や行動方針を明らかにするため、検討グループを組織し「菊川市議会業務継続計画（議会BCP）」の策定を行ってきました。

全国各議会の先進事例を参考に協議を重ね、菊川市議会に合致した計画の策定を目指し、議会内や執行部の各組織との調整を経て、令和2年11月に運用を開始しました。

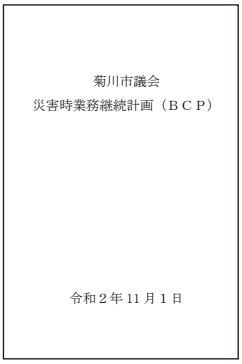
策定に当たっては、要綱案、計画素案等の項目一つひとつ入念に協議し、節目ごとに議会運営委員会や全員協議会で各議員から意見聴取を行い、原案を決定しました。市役所本庁舎が使用できない場合の代替え施設として、菊川文庫および小笠図書館会議室を選定し、出動が困難な場合はオンライン会議による参加も可能としました。

ただし今回、議会BCP策定のきっかけとなった、新型コロナウイルス感染症拡大事案のような特殊事項について計画内に具体的に示すことは困難であり、同様の事案については、その都度対応マニュアルを策定することが望ましいとの結論に達しました。

今回策定された議会BCPは、今後も発動が想定される災害等の事案に対応力を発揮できるよう、様々な事柄を想定して繰り返し訓練を行い、その結果を反映した不断の見直しを行うことで、より一層実効性のあるものとしていくことが重要です。

【グループ構成メンバー】

小林　博文　グループリーダー
松本　正幸　議長
内田　隆　議会運営委員長
宮城　力弘　総務建設委員長
赤堀　博　総務建設副委員長


菊川市議会
災害時業務継続計画（ＢＣＰ）

令和２年11月１日